



## くろつち便り

内容：新年にあたって（会長）  
くろつち会学習会／辺野古・高江を訪  
れて／インフルエンザ／これからのこと

## 新年のご挨拶を申し上げます

くろつち会会長 野間典文

明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、ご家族お揃いで新しい年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

私も4歳になった初孫と初めて、穏やかな新春の光の中で屠蘇を祝うことが出来、このひと時の団らんが続くことを願わずにはいられませんでした。

さて、くろつち会も昨年、皆様方のご協力を得ながら当初の計画を実行する事が出来ました。本当に有難うございました。諸々の行事もさることながら、4月の県議選、薩摩川内市区の遠嶋春日見さんは残念ながら落としてしまいましたが、鹿児島市区の柳誠子さん、始良郡区の向井尊磨さんの当選を勝ち取ることが出来、大変うれしい事でした。組織内候補でもあり、地元で原発稼働反対の先頭に立って貰わなければならない遠嶋さんを落としたことは大いに反省し、今後の闘いの幅を広げるべく教訓としなければならないと思います。

また、去年は安倍政権の暴走による「安保法制の強行採決」「原発再稼働」阻止のため、鹿児島・川内・鹿屋での抗議集会に何度も足を運んでいただきましたし、「空中給油機訓練受け入れ」反対の集会やデモにも何回も足を運んでいただきました。その他、多くのカンパもいただき、誠に感謝に堪えません。カンパはその趣旨の通り

に活用させていただきます。

さて、今後のくろつち会の歩みを考えてみますと、言うまでもなく私たちの団結のスローガンである「教え子を再び戦場に送るな」の言葉通り、憲法9条を守り、この日本だけでなく地球上から戦争や紛争・テロというものを無くす努力・運動を続けなければなりません。安保法制の廃止・廃棄も視野に入れながら、日本政府には米国のお先棒を担いで自衛隊の軍事力を地球上のいかなるところでも行使しない要求を、選挙を通じて最大限していくこと。次に子供たちが健やかに成長できる環境を作ること。社会的弱者といわれる子供や老人を取り巻く環境は悪化の一途をたどり、義務制でも就学困難者が増加しているにもかかわらず、有効な手立てが打たれていない実態があります。このための法整備に早急に取り組む必要があります。そして今の社会は努力してきた者が必ずしも報われてはいない現実があります。一握りの資本家や一部の大企業・各分野での成功者だけが優遇される反面、貧困にあえいでいる国民も少なくありません。このままでは経済的な格差が「負の連鎖」を生み、日本社会に階級制を作り出す要因となるやもしれません。現憲法のある「主権在民」「基本的人権の尊重」「平和主義」が今、覆されようとしています。何とかしてこ

の流れを止めなければなりません。今年は4月に鹿児島市議選、7月には大事な参議院選があります。鹿児島市議選は勿論、参議院選では私たちの推薦する候補の勝利を勝ち取り、参議院の勢力分野を塗り替え、次回の衆議院選で自公勢力を過半数割れに追い込み、安倍政権を退陣に追い込む、そういう気概を持って選挙戦に取り組まなければと感じるところです。

国内だけでなく国外でも日々、目を覆う惨状が起きています。大国の強欲なまでの利権追求と身勝手な振る舞いにより、無辜の人々の生命や財産が奪われ、その行為を全く恥じることさえできない大国とは一体何なのでしょう。国内もまた、政治家や官僚の劣化が止まるところを知りません。こういう状況の中でアメリカのお先棒を担いで世界のいたるところで自衛隊に軍事力を行使させる、このことはだけは阻止しなければなりません。

私たちの力は微々たるものかもしれませんが、団結することによって大きな力に変えてきたことは事実です。そして何よりも力強いことは、私たちと同じ考えの人が国民の半数以上いるという事実ですし、遠い存在のように思っていた若い人たちも共感する人が多いという事実です。今この時から安倍政権に鉄槌を加えていきましょう。

**インフルエンザ対策**：昨年を書きましたが、インフルエンザウイルスは絶対湿度  $11\text{g}/\text{m}^3$  以上だと、6時間後にはほぼ死滅するそうです。相対湿度に換算すると、室温 18 度だと 72%、室温 20 度だと 64%、22 度だと 57%、24 度では 50%、26 度なら 45%です。そろそろ流行の季節、部屋を暖めて、しかもしっかりと加湿できたらと思います。

今後の予定：

2月5日(金)17:30～脱原発集会  
2月14日(日)14:00～新春平和のつどい  
講演 杉原洋／農業研修センター 500円  
3月13日(日)10:30～16:00 中央駅東口  
ストッパ川内原発かごしま集会



# くろつち会学習会

報告 原口かつ子

1月29日、くろつち会の学習会で人工呼吸のやり方を習いました。

人工呼吸のやり方は、乳首と乳首の中間の胸骨を手のひらの硬いところ



で、1秒間に2回程の速さで5cm沈む程度手に体重をかけて30回押し、気道を広げるため、右手で額を押しつけながら鼻をつまみ、左手で顎を上げ息を2回吹き込む。この30回の胸骨圧迫と2回の息の吹き込みを繰り返す。

5cm沈む程の胸骨圧迫は、力を入れすぎて肋骨が折れて血だらけになったり、折れた骨が内臓にささったりすることがありそうで心配になります。正確にやるには、慌てずに冷静に日常生活を送る心がけが大事だと思いました。

会員の方が、奥さんが倒れた時によけいなことをやってしまったけど、そんなことよりも119番通報と胸骨圧迫が最優先であると話されました。

驚いたことに、AEDは心臓の震えを止めるだけのもので、人工呼吸の代わりにするものではない、ということも知りました。実技も3回できて、いい講習会でした。

# 辺野古、高江を訪れて

内園みどり

12月18日から3日間、退女教の九プロ四県交流集會に、肝属から6人参加しました。



2日目、沖縄退職教の伊波さんと安慶名さんに案内していただき、辺野古を訪れました。ゲート前では、連日早朝6時からの座り込みが520日余り続いていました。私たちが着いたときは、なんと民間の警備保障会社アルソックの社員が、門の前で警備していました。早朝の座り込みをごぼう抜きするのは、警視庁から派遣された機動隊150名です。時には肋骨を折る暴力を受けながら、非暴力（言葉の暴力も含む）の抗議を続けていることに強く心を打たれました。

ゲートを前に座り込んでいる人々としばしの交流をした後、私たちは辺野古から1時間ほどの高江に向かいました。ここは「標的の村」で紹介された北部訓練場（ベトナム戦争時、米軍が訓練のために、枯れ葉剤を散布していた！）と隣り合わせにある集落です。北部訓練場の一部を返還する代わりに、ここにオスプレイのヘリパッドを建設するというのです。しかも返還は終わっていないのに、すでに二つ建設を強行されてしまったのです。人口約150名の集落ですが、日本中、世界中から駆けつける人々とともに、9年にわたり座り込みを続けています。その強靱さに圧倒されます。

美しい辺野古の海、多くの命を育む"やんばる"の森とともに、「沖縄は今でも戦場です」という言葉が、強烈に印象に刻みつけられた旅でした。



# 鹿屋に米軍はいらない県民集会

11月29日は小雨でしたが、鹿屋リナシティ周辺での集會に、「米軍はいらない」をスローガンに、県内各地から数百名の仲間が集まりました。集會後、市役所までデモ行進をしました。（右上写真は集會で当局の非を訴える上蘭紀夫さん）

